

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	南海部郡蒲江町立楠本小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	0	4	5	
児童数	1	2	7	3	3	6	0		22

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけた子どもの育成  
 ~一人ひとりに応じたきめ細かな指導のあり方を求めて、国語科を中心に~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1~6年生・国語  
 ・すべての教科の基礎・基本となる「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」などの場が多く、授業だけでなく、全校の場でも検証できる国語科に焦点をあて、全職員で一人ひとりの子どもの力を高めていけるため。  
 1~6年・他の教育活動の場  
 ・スキルタイム・全校スキル・楠小タイム・児童総会・行事・学級活動・言語環境・読書指導等を下記の理由により設定した。  
 全教職員で子どもに関わっていける。  
 地域・保護者の教育力の高さを生かし、子どもを多角的に見ることができる。  
 子どもの成長や指導のあり方の検証が適宜できる。  
 みんなの前で頑張ることができたという子どもの励みとなる。  
 年間を通した活動も組みやすい。  
 1クラス平均4名程度の学級集団ではなく、22名という大きな集団の中で学習の場が設定できる。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ                  確かな学力を身につけた子どもの育成                  ~一人ひとりに応じたきめ細かな指導のあり方を求めて、国語科を中心に~</p> <p>研究の見通し(仮説)                  学び方がわかる学習過程を設定し、課題が明確で主体的に取り組める授業及び他の教育活動の場で、それぞれの特質を生かした指導の工夫や適正な評価活動を行っていけば、子どもは自分に自信をもち、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>研究の内容・方法                  児童観・指導観・学力観の見直し(確かな学力とは)                  学び方がわかる学習過程の設定                  発展的な指導や補足的な指導、個に応じた指導                  ・支援の工夫やあり方                  ・学習形態の工夫やあり方                  教材開発(子どもの生活に根づいたもの)                  評価規準の作成及び評価を生かした指導の工夫                  教育課程、日課表の組み方などの見直し                  図書館やコンピュータ室などの教育環境の整備と活用                  「話すこと、聞くこと、話し合うこと」の力を高めるための授業実践                  ・6年「討論会をしよう」</p>
--------	---

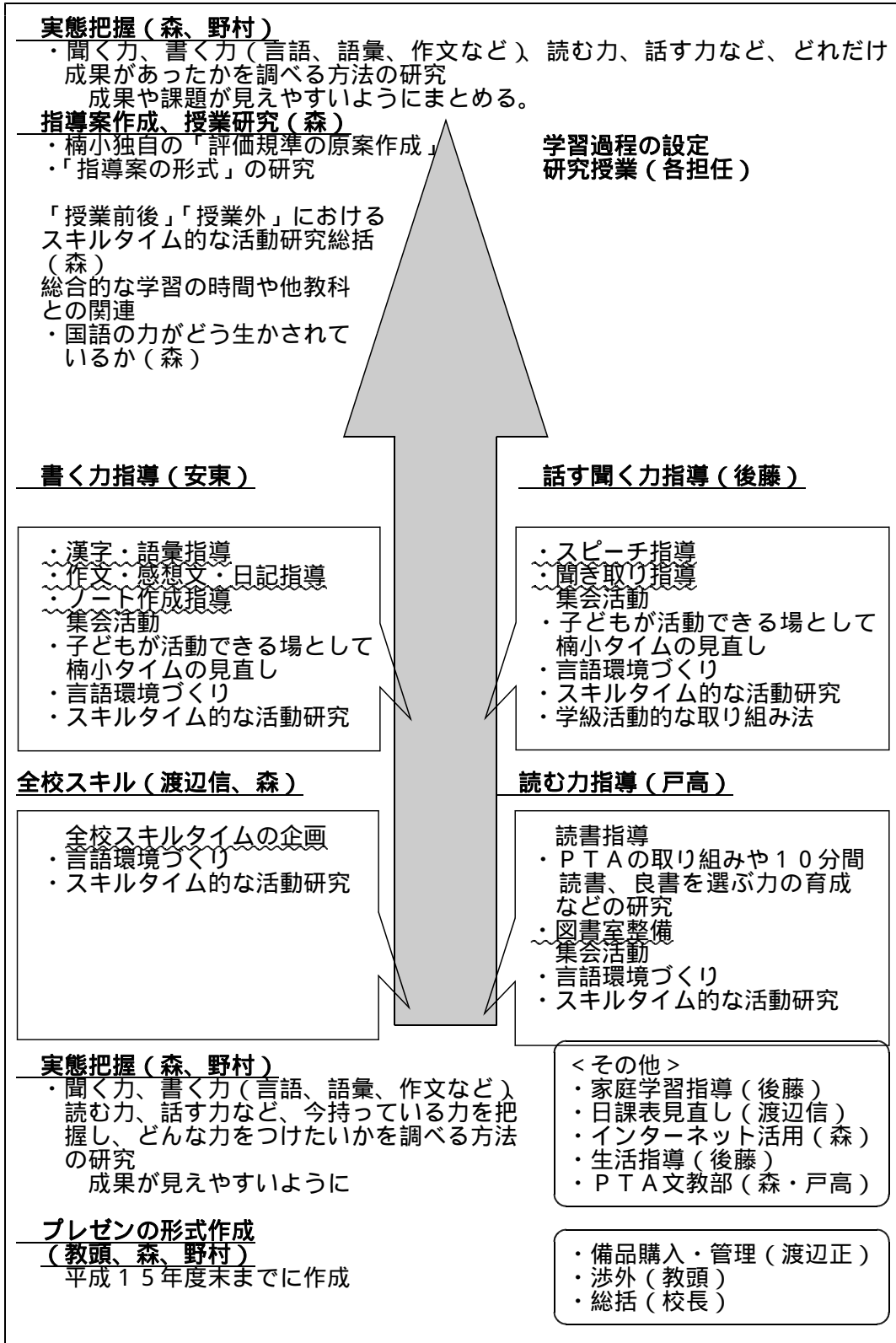
- ・ 4年「笑い話のおもしろさを探そう」
  - ・ 5年「作者やみずずのものの見方や感じ方に迫ろう」
  - ・ 1年「かえるくんがまくんの気持ちを考えよう」
- 毎朝スキルタイムを実施し、週に一度、全職員で子どもを評価

平 成 15 年 度	<p>テーマ 確かな学力を身につけた子どもの育成 ～一人ひとりに応じたきめ細かな指導のあり方を求めて、国語科を中心に～</p> <p>研究の見通し(仮説) 学び方がわかる学習過程を設定し、課題が明確で主体的に取り組める授業及び他の教育活動の場で、それぞれの特質を生かした指導の工夫や適正な評価活動を行っていけば、子どもは自分に自信をもち、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>(授業仮説) 子どもの学習意欲が喚起・継続されるような素材(学習課題)に出会わせ、学び方がわかる学習過程を組み、多様な考え方を求めて十分な時間と場を保障し、適正な評価活動を行っていけば、子どもは自分に自信をもち、楽しんで話し合い活動を行うであろう。</p> <p>研究の内容・方法 「話す力」「聞く力」に焦点をあてた授業実践 指導案の目標に位置づけ、評価基準・評価規準を作成する。 特に、「話し合う力」を高めるための場を設定 「話すこと、聞くこと、話し合うこと」の力を高めるための授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年「昼休みの遊びはサッカーばかりでいいの？」</li> <li>・ 6年「環境問題からメッセージを作ろう」</li> <li>・ 5年「給食がいいか弁当がいいかディベート」</li> <li>・ 1、2年「身ぶりで伝えよう」</li> <li>・ 3年「絵文字発表会をしよう」</li> </ul> <p>全校スキルタイムの実施 楠小タイムや児童総会で、発表や論議する場を設定 スキルタイム(話す・聞く・言語語彙)や算チャタイム(計算)の充実 基礎学力の定着 児童観・学力観、教育課程・日課表の見直し 図書館やコンピュータ室などの教育環境の整備と活用 PTA(保護者)との連携(親子読書、夜読会)</p>
------------------------	---

平 成 16 年 度	<p>テーマ(見直しの予定) 確かな学力を身につけた子どもの育成 ～一人ひとりに応じたきめ細かな指導のあり方を求めて、国語科を中心に～</p> <p>研究の見通し(仮説)(見直しの予定) 学び方がわかる学習過程を設定し、課題が明確で主体的に取り組める授業及び他の教育活動の場で、それぞれの特質を生かした指導の工夫や適正な評価活動を行っていけば、子どもは自分に自信をもち、確かな学力が身につくであろう。</p> <p>(授業仮説)(見直しの予定) 子どもの学習意欲が喚起・継続されるような素材(学習課題)に出会わせ、学び方がわかる学習過程を組み、多様な考え方を求めて十分な時間と場を保障し、適正な評価活動を行っていけば、子どもは自分に自信をもち、楽しんで話し合い活動を行うであろう。</p> <p>研究の内容・方法 「話し合うこと」に焦点をあてた授業実践 指導案の目標に位置づけ、評価基準・評価規準を作成する。 全校スキルタイムの実施 楠小タイムや児童総会で、発表や論議する場を設定 スキルタイム(話す・聞く・言語語彙)や算チャタイム(計算)の充実 基礎学力の定着 児童観・学力観、教育課程・日課表の見直し 図書館やコンピュータ室などの教育環境の整備と活用 PTA(保護者)との連携(親子読書、夜読会) 研究発表会に向けての検討</p>
------------------------	---

研究内容の発表 [ 研究担当を中心に ]  
 公開研 [ 4, 5, 6 年で一つ、1, 2, 3 年で一つ ] 及び事後研  
 スキルタイム [ 公開研をしない学年、学級で ]

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

(授業に関して)  
研究授業にあたり、「評価規準及び評価基準」を作成していく中で、評価に照らし合わせて、一人ひとりの子どもたちの実態をこれまで以上に詳細に分析していけるようになった。特に、抽出児(0児)に焦点をあてた指導案の形式も確立することができた。そのため、単元を通して期待する姿を設定し、個に応じた具体的な支援をしっかりと位置づけて、一人ひとりの子どもたちに接していけるようになった。  
また、授業仮説も設定したため、全学年が共通した視点で授業に取り組み、事後研も授業仮説に即して検証することができるようになった。  
本校が設定した学習過程を繰り返し行うことで、子どもたちが学習の見通しをもって、自ら学ぶ姿勢が見え始め、他の教科にも学習過程を生かしていけるようになった。  
ワークシートの積み重ねから、子どもたちの思考の流れがわかる記録ファイルができています。  
定期的な業者テスト(単元ごと)では、各学年とも国語科の「話す・聞く・話し合う」の領域を中心に平均点が上がっている。特に、聞き取りに関しては、大切なことがらをメモする力が高まっている。  
話し合い活動が充実してきたため、友だちの考えを自分の考えと比較しながら、楽しく課題を追究しようとする姿勢が身についてきた。

(他の教育活動に関して)  
集会活動後の感想発表では、「進んで感想を言いたい」と、自ら前に出て思いを語る子どもが増え、今までなかなか人前で話せなかった子どもまでも、積極的に話すことができるようになってきている。  
基礎学力の定着のため、朝のスキルタイムの内容見直し(言語・話す・聞く)や放課後の算チャタイム(計算力)を新設するだけでなく、全校スキルタイム(月に一度)を新設した。全職員で子どもを評価することにより、内容の充実が図られ、子どもへの支援について共通理解することができた。  
異学年との活動で、高学年はより高い目標を設定して自覚をもって臨み、低中学年はよさを学んで自らを高めようとする事ができている。  
「読む力」を高める一つの手段として、保護者と子どもと教職員による夜読会を月に一度実施し、書物にじっくりとふれる機会を設けた。読書意欲の向上につながっている。

### 2. 今後の課題

「話す・聞く」力の一人ひとりの伸びは、発表の様子や意欲でよく見える。しかし、映像やワークシートなどの記録としては比較検討できるが、具体的な伸びや他の教科への効果を示すデータ分析が難しい。  
個に応じた指導を充実させるために、日課表の組み方を複雑にしているのだが、指導時数の調整を行事や欠時等を見通して月に1回はしていかなければならない。  
全職員による全校児童の評価(全校スキルタイム)を毎回じっくり行うことができない。  
地域の方や保護者が子どもたちの伸びをどのようにとらえたかを把握し、それを参考にしながら、子どもたちの課題とこれからの研究の方向性を考えていかなければならない。

### 学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査(CRT)第1回	平成14年3月上旬実施
教研式標準学力検査(CRT)第2回	平成15年3月上旬実施
教研式標準学力検査(CRT)第3回	平成16年3月上旬実施予定

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学校間連携推進地域連絡会議（平成14年12月6日・佐伯総合庁舎）  
テーマ…楠本小での研究経過報告（研究担当対象）  
HP作成については、現在作成中であり、来年度には公開する予定  
【地区別協議会における特色ある取り組み】  
・平成14年度の研究をまとめた研究紀要を蒲江町全校に配布した。  
・平成15年度の研究紀要も配布予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】              ■ 6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                       19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
                                 ■ 一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】              ■ 国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有                       無